

2024. 12.9

報道関係者 各位

<配信枚数 2 枚>

【立命館土曜講座のご案内】

2025 年 1 月テーマ

「阪神・淡路大震災から 30 年の節目に考える」

開催日程：2025 年 1 月 18 日(土)・25 日(土)

開催方法：ハイブリッド講座(対面・Zoom ウェビナー)

2025 年 1 月の立命館土曜講座は、立命館大学歴史都市防災研究所の企画として「阪神・淡路大震災から 30 年の節目に考える」をテーマに、ハイブリッド形式(対面・Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 1 月テーマ「阪神・淡路大震災から 30 年の節目に考える」

(1) 阪神・淡路大震災から学ぶ～発災当時の対応と課題～

日時：2025 年 1 月 18 日(土) 10:00～11:30

(2) 阪神・淡路大震災～戦後最大の地震被害～

日時：2025 年 1 月 25 日(土) 10:00～11:30

開催方法：ハイブリッド講座(対面・Zoom ウェビナー)

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：歴史都市防災研究所カンファレンスルーム 35 人、Zoom ウェビナー 400 人

※実施前日 12:00 までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeikan.ac.jp/doyo/>

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当:武田・堀

TEL.075-465-8224

別 紙

■立命館土曜講座 1 月テーマ「阪神・淡路大震災から 30 年の節目に考える」

(1) 阪神・淡路大震災から学ぶ～発災当時の対応と課題～

日時：2025 年 1 月 18 日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学 理工学部 教授 大窪 健之

講師による内容紹介：

阪神・淡路大震災の教訓を通して、電話の通信状況、災害弱者への配慮、時系列に応じて必要となる情報の質、火災の原因などについて紹介し、災害から学び、来る災害を想像することの重要性についてお話しします。さらに、コミュニティ活動を防災対策に活用されている事例を紹介し、日常的な活動の中で防災に取り組むことの大切さについて、話題提供します。

(2) 阪神・淡路大震災～戦後最大の地震被害～

日時：2025 年 1 月 25 日(土) 10:00～11:30

講師：京都大学 名誉教授/立命館大学 歴史都市防災研究所 客員研究員 鈴木 祥之

講師による内容紹介：

関東大震災(関東地震、1923 年)では火災による焼死が、東日本大震災(東北地方太平洋沖地震、2011 年 3 月)では津波による死者が多かったのに対し、阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震、1995 年 1 月)では地震動による建物の倒壊などによる死者が多かった。

阪神・淡路大震災は、大都市の直下で発生した「都市直下型地震」であったため、甚大な被害をもたらした。死者は発生当時戦後最多となる 6,434 人となり、689,776 棟の建物が被害を受け、被害総額は約 10 兆円に達した。コンクリート系、鉄骨系ビルなどの被害も多かったが、木造建築物の被害が顕著であった。そこで、木造建築物の耐震性に関する研究が重要となった。特に伝統構法木造建築物の構造力学的、とりわけ地震時の挙動は解明されていない点が多く、国土交通省補助事業「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会(2010－2012 年度、委員長:鈴木祥之)では構造力学的解明と実験的検証のもと石場建てを含む伝統的構法のための耐震設計法作成に取り組んだので、実大振動台実験の映像を交えながら説明します。

■立命館土曜講座

1946 年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト> <https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>